

政策研究センター リサーチ・プロジェクト 成果報告書

提出日: 2020/2/28

申請者(リーダー): 氏名 隅藏康一 職名 政策研究大学院大学・教授

リサーチ・プロジェクト名:

(和文) 科学コミュニケーターのスキル・スタンダードとナレッジ・プラットフォームの構築

(英文)

期間(yyyy/mm/dd): 2019/8/1 から 2020/3/31 1年間

共同研究者:	氏名	職名	所属機関・部局名	(備考)
共同研究者1	天元志保	客員研究員	政策研究大学院大学	
共同研究者2	樋江井哲郎	客員研究員	政策研究大学院大学	
共同研究者3	松田壮一郎	客員研究員	政策研究大学院大学	
共同研究者4	谷明洋	科学コミュニケーター	フリーランス	
共同研究者5	西村(黒田)由希子	代表理事	一般社団法人知識流動システム研究所	
共同研究者6	大崎 章弘	特任講師	お茶の水女子大学	
共同研究者7	小泉 周	特任教授	国立大学共同利用法人 自然科学研究機構	

リサーチ・プロジェクトの目的

科学リテラシーの向上ならびに専門家と市民の間の科学コミュニケーションの促進が、先進国・途上国共通の課題となっていることを踏まえ、科学コミュニケーションの促進のために、科学コミュニケーターのスキル・スタンダードを作成する。他領域における類似の先行事例を調査し、科学コミュニケーターがノウハウ(実践メソッドや装置・機器などのマテリアルを含む)を共有してスキルのレベルを向上させることを支援することを目指したナレッジ・プラットフォームを構築につなげる。

研究成果の概要(800字程度):

初年度である本年度は、研究方針を定めた上で、5人の科学コミュニケーターや専門家とのヒアリング・意見交換を実施し、仮の「スキル・スタンダード」を定め、次年度につながる考察を深めた。研究方針は、スキル・スタンダードを仮説的に定め、社会で活躍している科学コミュニケーターへのヒアリングによって、ブラッシュアップを図ることとした。ヒアリングは研究機関の広報担当者や、事業の中で科学コミュニケーションを実践している社会起業家らを対象に行なった。その結果を踏まえ、スキル・スタンダードでは、科学コミュニケーターが社会で価値を発揮するための能力を、①特定の学問領域への専門知識や情報(専門性)、②科学的事実に基づく論理性や、俯瞰的視点(思考力)、③状況に合わせた情報編集とコミュニケーション(コミュニケーション)④特定の職業領域の知識、技能、実践力(仕事能力)一に大別し、その構成要素をさらに分解した。このスキル・スタンダードを元にした考察では、「社会的に活躍している科学コミュニケーターには、いくつかのタイプ(教育者、専門情報発信者、イノベーション創出者など)が存在すること」「そのタイプが①～④の組み合わせで、概ね説明できること」「科学コミュニケーターのスキル・スタンダードのうち、特に②～④は近未来の社会において汎用性が高いこと」「科学コミュニケーターの特徴である専門性も、②～④の能力を掛け合わせることでより大きな価値創出につなげられること」「科学コミュニケーターの養成機関では、特に④の力を育成する機会が少ないこと」などが仮説として考えられた。次年度はこの仮説の検証を進めながら、科学コミュニケーターの「スキル・スタンダード」の構築を進める。また、スキル・スタンダードをコンピテンシーとして整理し、科学コミュニケーターの育成や自己成長の参考材料となるような、ルーブリック等の作成も検討する。

研究成果:

別紙((成果報告書(研究成果一覧))に記入

その他、研究成果として特記すべき事項:

※政策研究センターのリサーチ・アシスタント(RA)雇用に採択されたプロジェクトについては、RAを雇用したことによって得られた研究成果(例:RA氏名が記載された①論文発表、学会発表など。予定も含む。)を必ず記載してください。

(全ての項目を含め、1頁以内で記述してください。)

成果報告書(研究成果一覧)

研究成果一覧:

(発表予定を含む。但し、投稿中、投稿準備中は除く。別紙一覧でも可。)

(必要に応じて適宜追加)

論文((学術雑誌(総合雑誌(文藝春秋、中央公論、世界)を含む。))等掲載)

※査読付きのものは、査読欄に「1」を入れてください。

※共著論文の場合には、ご自身の名前の下にアンダーラインを引いてください。

※国際共著とは、異なる国を拠点とする複数の研究者による共著論文を意味します。

著者	⁰ 件 標題	雑誌名 /所収図書(編者・図書 名・出版者等	巻・号 /章・節	^件 発行年	開始 ペー ジ	終了 ペー ジ	⁰ 査読 (有=1)	⁰ 国際共 著 (yes=1)	DOI	⁰ オープン アクセス (yes=1)
1										
2										
3										
4										
5										

図書:

※共著の場合にはご自身の名前の下にアンダーラインを引いてください。

※書籍の一部分のみを執筆した場合には論文の区分に含めてください。

著者・編者	⁰ 件 図書名	出版社	発行年月	総ページ数
1				
2				
3				
4				
5				

口頭報告・学会発表等:

※査読付きの学会論文集は「論文の区分」で報告し、査読なしの学会論文集は「学会発表の区分」で報告してください。

※招待講演については、学会等名の後に(招待講演)と明記してください。

報告者等	³ 件 論題	学会・研究会名等	報告年月日	開催場所
1 隅藏康一(発表者)・加藤春香	持続可能な開発目標(SDGs)の達成のための学術的知識の活用促進に向けて	日本機械学会2019年次学術大会	2019年9月9日	秋田大学
2 隅藏康一	「医薬品/診断/ゲノムへのアクセスと知的財産」	日本知財学会2019年度春季シンポジウム「SDGsと知的財産」	2019年6月19日	政策研究大学院大学
3 森田由子・大淵希郷・天元志保・隅藏康一	科学コミュニケーション	隅藏担当講義「知財・技術経営論」(第12回)	2019年12月	東京大学駒場キャンパス
4				
5				